

33 番の歌 エホバに重荷を委ねる

不当な扱いを受けた時に心に留めておきたいこと

「**悪に征服されではありません。善によって悪を征服し続けましょう**」。 [ローマ 12:21](#)

ポイント：不当な扱いを受けた時にどうすれば上手に対処できるかを学びます。

1-2. 私たちはどんな不当な扱いを受けることがありますか。

イエスは、ある**例え話**の中で、**公正に扱われることを裁判官に何度も求めたやもめ**について話したことがあります。当時の人们は**不公正な扱いを受けることがよくあった**ので、イエスの**弟子たちの多くはこの話に共感できたこと**でしょう。（[ルカ 18:1-5](#)イエスは弟子たちに、常に祈り、諦めてはならないことについて、さらに例えを話した。2「ある町に、神への畏れも人への敬意もない裁判官がいました。3その町には1人のやもめもいて、何度も彼のもとに来ては、『訴訟の相手との間で公正な裁判がなされるようにしてください』と言いました。4裁判官はしばらくは気が進みませんでしたが、その後、心の中で言いました。『私は神を畏れたり人を敬つたりしないが、5このやもめがうるさく言ってくるから、公正な裁判がなされるようにしてやろう。そうすれば、訴え続けて私を困らせることはないだろう』」）今でも同じことがいえます。私たちは**誰でも不当な扱いを受けることがある**からです。

2 今の世の中では**偏見や不平等や抑圧**がよく見られるので、**不当な扱いを受けても私たちは驚きません。**（[伝 5:8](#)もし、貧しい人が虐げられ、辺りで公正や正義が侵されているのを見ても、そのことで当惑してはならない。高官は、さらに位の高い者の監視下にあり、その位の高い者の上にはさらに位の高い者がいるからだ）でも、**兄弟姉妹から不当なことをされると深く傷つくかもしません。**もちろん、反対者たちとは違い、兄弟姉妹は**わざとひどいことをしようとは思っていません。**でも、**完璧ではないので失敗してしまうことがあります。**そのような時には、**反対者たちからひどい扱いを受けたイエスがどのように反応したか**を考えることが役立ちます。私たちは不当な扱いをする**反対者たち**に対して**辛抱強く接したい**と思っています。そうであれば、**仲間の兄弟姉妹**に対しては**もっとそうしたい**と思うことでしょう。では、**私たちが会衆の仲間やそれ以外の人からひどい扱いを受ける時、エホバはどう感じているでしょうか。**

3. エホバは**私たちがどんな扱いを受けているか**を**気に掛けている**、といえるのはどうしてですか。

3 エホバは、**私たちがどんな扱いを受けているか**を**とても気に掛け**ています。「**エホバは公正を愛する方**」です。（[詩 37:28](#)エホバは公正を愛する方。ご自分に尽くす(*を搖るぎなく支持する/から離れない)人を見捨てることはない。その人们はいつも守られる。しかし、悪人の子孫は取り除かれる）イエスは、エホバが**適切な時に「速やかに公正をもたらしてください」と言いま**

した。（ルカ 18:7, 8 では神は、昼も夜もご自分に向かって叫ぶ選ばれた者たちのために必ず公正をもたらしてくださいなでしようか。神は彼らに対して辛抱しています。8 そして、速やかに公正をもたらしてくださいなでしようか）間もなく、エホバは全ての苦しみをなくし、あらゆる不公正を正してくれます。（詩 72:1, 2 神よ、どのように裁くかを王に教えてください。王の子があなたの正しさに倣えますように。2 王があなたの民の訴えを正しく取り上げ、立場が低い人を公正に扱いますように）

4. エホバは私たちをどのように助けてくれていますか。

4 私たちは正しいことが行き渡る時代が来るまで待つ必要があります。でもそれまでの間、エホバは私たちが不公正なことを経験するとしても上手に対処できるよう助けてくれています。（ペテニ 3:13 しかし、私たちが神の約束によって待ち望んでいる、新しい天と新しい地があります。そこには正しいことが行き渡ります）例えば、ひどい扱いを受けた時に①どうすれば良くない反応を避けられるかを教えてくれています。また、②イエスの完璧な手本を聖書に残してくれています。さらに、③④役立つアドバイスも与えてくれました。

①不当な扱いにどう反応するかに注意する

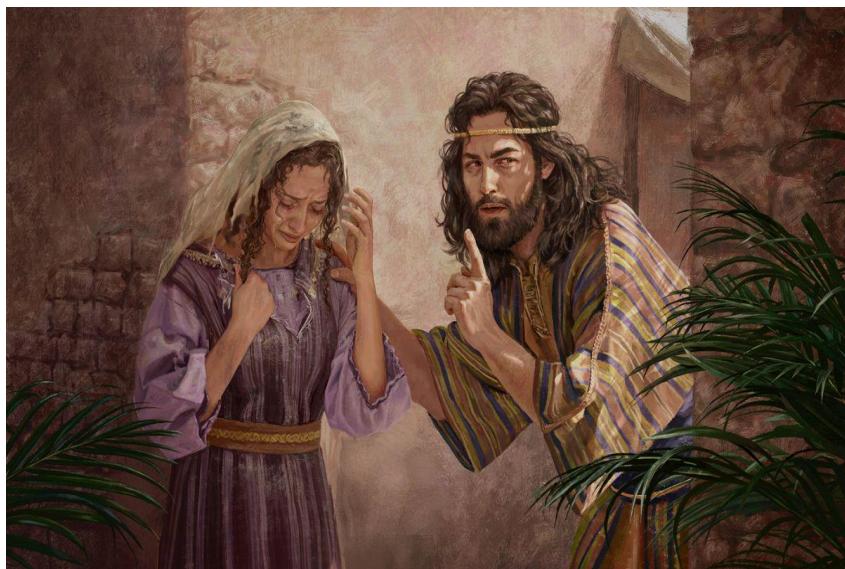
5. 不当な扱いにどう反応するかに注意する必要があるのはどうしてですか。

5 不当な扱いを受けると、深く傷ついたりつらい気持ちになったりするかもしれません。（伝 7:7 圧迫は賢い人に狂気じみた行動を取らせる。賄賂は心を堕落させる）エホバに忠実に仕えたヨブやハバククもそうでした。（ヨブ 6:2, 3 私の苦悩が十分に量られ、私の災難もはかりに掛けられればよいのに！3 今それは海の砂よりも重い。だから私は言葉が過ぎたのだ(*軽率に話してしまった)。ハバ 1:1-3）このように感じるのは自然なことです。でも反応の仕方に注意していないと、間違ったことをしてしまうかもしれません。

6. アブサロムの例からどんなことが学べますか。（挿絵も参照。）

6 私たちは不当な扱いを受けた時、自分の力でなんとかしようとして、間違ったことをしてしまうことがあります。でも、そうするなら状況はますます悪くなってしまうでしょう。ダビデ王の息子アブサロムの場合がそうでした。アブサロムは妹のタマルが異母兄弟のアムノンにレイプされた時、激怒しました。アムノンがしたことはモーセの律法によれば死に値する罪でした。（レビ 20:17 男性が、姉妹すなわち父の娘か母の娘と性関係を持ち、互いの裸を見るなら、それは恥ずべきことである。2 人は民の目の前で死刑にされなければならない。その男性は姉妹に恥をかけた(d*姉妹の裸をさらした)。過ちの責任を負うべきである）アブサロムが怒りを感じたのは無理もないことでしたが、自分の力でなんとかしようとするべきではありませんでした。アブサロムにはそうする権限はありませんでした。（サム二 13:20-23 兄のアブサロムが彼女に言った。「一緒にいたのはアムノン兄さんだったのか。いいか、タマル、黙っていなさい。彼はあなたの兄だ。このことを気に病まなくていい」。それでタマルは兄アブサロムの家に住み、人と会わな

いようにした。 21 ダビデ王は一部始終を聞き、非常に怒ったが、アムノンを責めるようなことはしなかった。長男であるアムノンを愛していたからである。 22 アブサロムはアムノンに何も言わなかった。妹タマルを辱めたアムノンを憎んでいた。 23 丸 2 年がたった頃、エフライムの近くのバアル・ハツオルに、アブサロムの羊の毛を刈る人たちがいた。アブサロムは王の子全員を招いた、 28, 29 アブサロムは従者たちに命じた。「よく見ていいなさい。アムノンがぶどう酒でいい気分になったら、私はあなたたちに、『アムノンを討て！』と言う。そうしたら、彼を殺しなさい。恐れてはいけない。これは私の命令だ。強くあって、勇気を出しなさい」。 29 それでアブサロムの従者たちは、命じられた通り、アムノンを殺した。王のほかの子たちは皆、立ち上がり、それぞれラバに乗って逃げた)



アブサロムは妹のタマルがひどいことをされた時、怒りに任せて行動した。（6節を参照。）

7. ある詩編作者は不公正なことを見て、どのように感じましたか。

7 不公正なことをしている人が罰を受けていないように見えると、正しいことを行うことに意味があるのだろうか、と感じるかもしれません。ある詩編作者は、悪い人たちが正しい人たちを食い物にしながら繁栄しているように思えて、「こうした悪人は気楽に暮らしている」と言いました。（詩 73:12 こうした悪人は気楽に暮らしている。自分の資産を増やしている）不公正なことを目にして心がかき乱されてしまい、エホバに仕えることの価値を見失いそうになりました。それでこう言いました。「私は事の意味を理解しようとして、思い悩んでいた」。（詩 73:14 私は一日中思い悩んだ。毎朝、懲らしめを受けた、16 私は事の意味を理解しようとして、思い悩んでいた）さらにこう言っています。「私の足はもう少しでそれていくところだった。危うく滑るところだった」。（←詩 73:2）アルベルト兄弟も似たような経験をしました。*一部の名前は変更

8. アルベルト兄弟はひどい扱いを受けてどうなりましたか。

8 アルベルト兄弟は、会衆の基金からお金を盗んだと誤解され、非難されました。その結果、長老ではなくなり、会衆の多くの人からも誤解され、敬意を失いました。兄弟は振り返ってこう言っています。「とてもつらかったです。怒りが込み上げ、がっかりしました」。兄弟はつらい感情をそのまま持ち続け、エホバとの絆が弱くなってしまいました。そして集会や奉仕に参加しな

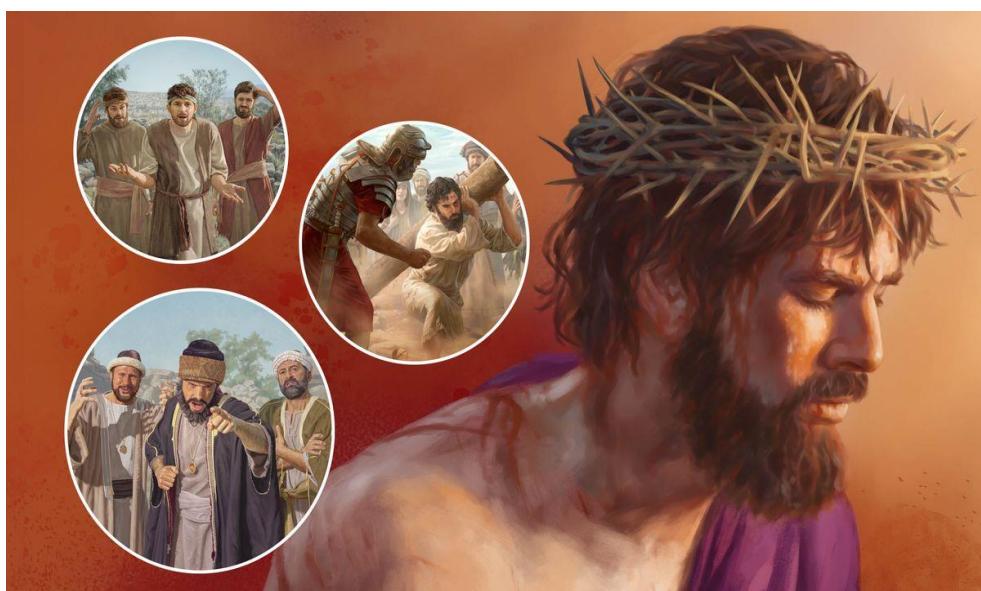
い時期が 5 年続きました。兄弟の例から、ひどい扱いを受けた時に怒りの気持ちを放つておくな
ら、どんな危険があるかがよく分かります。

②イエスの手本に倣う

9. イエスはどんなひどい扱いを受けましたか。 (挿絵も参照。)

9 イエスはひどい扱いに対処する点で完璧な手本を残してくれました。イエスが家族や他の人た
ちからどんな不当な扱いを受けたか、考えてみてください。親族から頭がおかしくなってしまった
と言われました。宗教指導者たちには、悪魔の力を使って奇跡を行っていると言われました。
さらに、ローマの兵士たちにあざけられ、暴力を振るわれ、殺されました。 (マル 3:21, 22 イエ
スの親族はそのことを聞き、イエスを捕まえに行つた。「彼は頭がおかしくなってしまった」と
言っていた。 22 また、エルサレムから下ってきた律法学者たちは、「彼はベエルゼブブに取りつ
かれている。邪悪な天使の支配者の力で、邪悪な天使を追い出しているのだ」と言っていた。)

14:55 一方、祭司長たちとサンヘドリン全体は、イエスを死刑にするため、イエスに不利な証言を
探していたが、見つけられなかつた: 15:16-20 兵士たちはイエスを中庭に、つまり総督の邸宅内に
引いていき、全部隊を呼び集めた。 17 そして、イエスに紫の衣をまとわせ、いばらの冠を編んで
かぶらせて、 18 「ごあいさつ申し上げます、ユダヤ人の王よ！」と呼び掛け始めた。 19 また、ア
シで頭をたたいたり唾を掛けたりし、ひざまずいてひれ伏した。 20 最後に、あざけつてから、紫
の衣を剥ぎ取って、本人の外衣を着せた。そして、杭にくぎ付けにするために連れ出した、 35-37
近くに立っていた人の何人かが、それを聞いて、「ほら、エリヤを呼んでいる」と言ひだした。
36 ある人が走つていって、酸味の強いぶどう酒を海綿に含ませ、それをアシの先に付けてイエス
に飲ませようとし、「このまま、エリヤが下ろしに来るかどうかを見よう」と言った。 37 しかし
(イエスは大きな叫び声を上げて、息を引き取つた) イエスはこのように本当にひどい扱いを受
けましたが、仕返しをしたりせず、忍耐しました。この手本から何を学べるでしょうか。



イエスの完璧な手本から、ひどい扱いを受けた時にどう対処すべきかを学べる。 (9-10 節を参照。)

10. イエスは不当な扱いを受けた時、どうしましたか。 (ペテロ第一 2:21-23)

10 ペテロ第一 2:21-23 を読む。* 「ペテロの第一の手紙」の 2 章と 3 章で、ペテロは 1 世紀のクリスチヤンが経験していたことについて書いています。当時のクリスチヤンの中には、自分が奴隸として仕えていた主人や信者でない夫から、ひどい扱いを受けていた人たちがいました。 (ペテー 2:18-20; 3:1-6, 8, 9) イエスが残してくれた完璧な手本は、私たちが不公正に対処する上で役立ちます。イエスは話すべき時とそうでない時を分かっていました。 (マタ 26:62-64) すると、大祭司が立ち上がってイエスに言った。「何も答えないのか。この人たちがあなたに不利な証言をしているが、どうなのか」。 63 しかし、イエスが黙ったままなので、大祭司は言った。「生きている神に懸けて誓って言え、あなたは神の子キリストなのか」。 64 イエスは言った。「その通りです。実際、今後あなた方は、人の子が強力な方の右に座り、また天の雲に乗って来るのを見ます」) 間違ったうわさを立てられても、いちいち反応することはありませんでした。 (マタ 11:19) 話す時には、迫害する人たちを脅したり悪態をついたりしませんでした。イエスが自分の反応をコントロールできたのはどうしてでしょうか。「正しく裁く方に自分を委ね」ていたからです。イエスは、一番大事なのはエホバが物事をどう見ているかであることを分かっていました。そして、エホバが適切な時に不公正をなくしてくれる信じていました。

11. 話す前にどんなことを考慮できますか。 (写真も参照。)

11 イエスのように、不当な扱いを受けた時、話す前によく考えることは大切です。ちょっとしたことであれば見過ごしましょう。事態を悪化させることを言ってしまわないように黙っていることもできます。 (伝 3:7 裂くのに時があり、縫うのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある。ヤコ 1:19, 20) 私の愛する兄弟たち、覚えておいてください。皆が、人の言うことに進んで耳を傾けるべきです。すぐに話したり、すぐに怒ったりしてはなりません。 20 怒りの気持ちからは、神が求める正しさは生まれません) でも、ひどい扱いを受けている人を守ったり、私たちの信条や真理について正しく伝えたりするために、話す必要がある場合もあります。 (使徒 6:1, 2 弟子が増えていたその頃、ギリシャ語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対する苦情が出始めた。ギリシャ語を話すやもめたちが毎日の配給を受けていなかつたからである。 2 そこで 12 人は、大勢いた弟子を呼び集めて、こう言った。「食卓に食物を配るために私たちが神の言葉を教えることができるのはよくありません) 話す時にはできるだけ穏やかに、敬意を込めて接するようにしましょう。 (ペテー 3:15 心の中で主キリストを神聖な方としてください。皆さんのが抱く希望について説明を求める人にいつでも弁明できるよう、準備しておきましょう。語る時には、温和な態度と深い敬意を示しましょう) * jw.org の「愛があれば平和になる」という動画を参照。 (伝道や学校で不当な扱いを受けても、使徒 16:24 宅番に対しても抱いていたパウロの愛、ソロモンの歌 8:10 シュラムの乙女の毅然とした態度から学ぶ)



イエスのように、不当な扱いを受けた時、**話す前によく考える**ことは大切。（11-12節を参照。）

12. どのようにして「正しく裁く方に自分を委ね」することができますか。

12 イエスのように、「正しく裁く方に自分を委ね」ましょう。ほかの人から誤解されたり、ひどいことをされたりした時には、エホバが全てを分かってくれているということを思い出します。そのことを確信しているなら、ひどいことをされても、やがてエホバがその問題を扱ってくださると考えることができます。全てをエホバにお任せするなら、怒りや憤りの気持ちを募らずに済みます。そうした気持ちをそのままにしておくなら、過剰に反応したり、喜びを失ったり、エホバとの友情が壊れてしまったりするかもしれません。（[詩 37:8](#)怒るのをやめ、激怒を捨てよ。腹を立てて悪を行ってはならない(if*腹を立ててはならない。害をもたらすだけだ)）

13. 不当な扱いを忍耐するのに、どんなことが**助け**になりますか。

13 もちろん、私たちはイエスの手本に完璧に倣うことはできません。自分が言ったことやしたことを、後になって後悔するときもあります。（[ヤコ 3:2](#)私たちは皆、何度も過ちを犯し(d*つまずき)ます。言葉で過ちを犯さない(d*つまずかない)人がいれば、それは完全な人で、体全体を制御できます）時には不当な扱いをされて、体も心も大きなダメージを受けることがあります。もしそういう経験をしているなら、エホバは全てのことを知っているということを忘れないでください。不当な扱いを受けて苦しんだイエスもあなたの気持ちをよく分かってくれます。（[ヘブ 4:15](#)、[16](#)私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できないような方ではありません。あらゆる点で私たちと同じように試され、しかも罪がない方です。16 それで、助けが必要な時に憐れみと惜しみない親切を受けられるよう、気後れすることなく祈り、惜しみない親切を示してくださる神(*惜しみない親切の座)に近づきましょう）イエスの完璧な手本に加えて、エホバは不公正にどのように**対処**したらいいのか、**具体的なアドバイス**を私たちに与えてくれています。「ローマのクリスチヤンへの手紙」の2つの節から考えてみましょう。

③ 「神の憤りに任せましょう」

14. 「神の憤りに任せ」るとはどういうことですか。（[ローマ 12:19](#)）

14 [ローマ 12:19](#) 愛する皆さん、復讐してはなりません。神の憤りに任せましょう。『『復讐は私がすることであり、私が報復する』とエホバは言う』と書いてあるからです。を読む。使徒パウロはローマのクリスチャンに、「神の憤りに任せましょう」と勧めました。これは、問題を正すタイミングや方法はエホバの判断に任せるということです。ジョン兄弟はひどいことをされた時のこと振り返ってこう言っています。「私は自分の方法で解決したい」という気持ちと闘わなければいけませんでした。でも、[ローマ 12章 19節](#)のおかげでエホバを待つことができました」。

15. エホバを待つなら必ず良い結果になるといえるのはどうしてですか。

15 エホバが問題を扱ってくれのを待つなら、必ず良い結果になります。自分の力で問題を解決しようとすると、多くの場合ストレスや挫折感を味わうことになります。エホバは私たちを助けていたいと思っています。まるで、「私に任せてくれたら、後は私がなんとかするから」と言っているかのようです。「私が報復する」というエホバの約束を信じているなら、エホバが一番良い方法で問題を扱ってくれるという確信を持ってエホバに任せることができます。先ほどのジョン兄弟はそうしました。こう言っています。「自分でなんとかしようとするのではなくエホバを待つなら、はるかに良い結果になります」。

④ 「善によって悪を征服し続けましょう」

16-17. 「善によって悪を征服し続け」る上で、祈りはどのように助けになりますか。 ([ローマ 12:21](#))

16 [ローマ 12:21](#) 悪に征服されではなりません。善によって悪を征服し続けましょう。を読む。パウロは「善によって悪を征服し続けましょう」とも勧めました。山上の垂訓の中でイエスも、「敵を愛し続け、迫害する人のために祈り続けなさい」と言っていました。 ([マタ 5:44](#) しかし私は言います。敵を愛し続け、迫害する人のために祈り続けなさい) イエスはまさにそうしました。ローマの兵士に杭にくぎ付けにされた時のことを思い出すかもしれません。その時、イエスがどれほどの痛みや屈辱を味わい、理不尽に感じたかは、私たちの想像をはるかに超えています。

17 イエスは不当な扱いを受けても愛を示し、エホバに仕え続けました。ローマの兵士たちに罰が与えられることを願うのではなく、こう祈りました。「父よ、彼らをお許しください。自分たちが何をしているのか知らないのです」。 ([ルカ 23:34](#) しかしイエスは言った。「父よ、彼らをお許しください。自分たちが何をしているのか知らないのです」。さらに彼らは、くじを引いてイエスの服を分配した) 私たちも、自分にひどいことをした人のために祈るなら、憤りや怒りの気持ちを静めることができます。相手に対する自分の見方も変えられるかもしれません。

18. アルベルト兄弟とジョン兄弟が問題に対処するのに、祈りはどのように助けになりましたか。

18 この記事に出てきた2人の兄弟たちにとっても、祈ることが助けになりました。アルベルト兄弟はこう言っています。「不当なことをした兄弟たちのために祈りました。怒りの気持ちを捨てられるよう助けてください」とエホバに何度もお願ひしました。兄弟は力を取り戻し、再びエホバに仕えるようになりました。ジョン兄弟はこう言います。「自分を傷つけた兄弟のために何

度も祈りました。すると、兄弟に対して批判的になるのではなく、広い視野で見ることができるようになりました。また、穏やかな気持ちにもなれました」。

19. この体制が続く限り、どうすることが大切ですか。 (ペテロ第一 3:8, 9)

19 この体制が続く限り、不当な経験をすることがあるでしょう。でもどんなときも、祈ってエホバに頼ることをやめないでください。イエスの手本に倣い、聖書のアドバイスの通りにしていきましょう。そうするなら、エホバがあなたを支え、豊かに報いてください。(ペテロ第一 3:8, 9) 最後に、皆が、一致した考え方(*同じ考え方)、仲間をいたわる気持ち、兄弟愛、温かい思いやりを持ち、謙遜であってください。9 傷つけられたり侮辱されたりしても、仕返しをしてはなりません。かえって、相手に親切にして(*のために祝福を願って)ください。皆さんはこうした道に招かれたからです。この通りにすれば、祝福を受けるでしょうを読む。)

どんなことを学びましたか

1. ひどい扱いを受けた時、イエスの態度にどのように倣えますか。

- ・S09 イエスはひどい扱いに対処する点で完璧な手本を残してくれた。イエスが家族や他の人たちから本当にひどい扱いを受けましたが、仕返しをしたりせず、忍耐した。
- ・S10 イエスは話すべき時とそうでない時を分かっていた。間違ったうわさを立てられても、いちいち反応せず、話す時でも、迫害する人たちを脅したり悪態をついたりしなかった。イエスが自分の反応をコントロールできたのは「正しく裁く方に自分を委ね」ていたため。一番大事なのはエホバが物事をどう見ているかであることを分かっていて、エホバが適切な時に不公正をなくしてくれることを信じていた。
- ・S11 不当な扱いを受けた時、話す前によく考えて、ちょっとしたことであれば見過ごし、事態を悪化させることを言ってしまわないように黙っていることもできる。ひどい扱いを受けている人を守ったり、私たちの信条や真理について正しく伝えたりするために、話す必要がある場合もあるが、話す時にはできるだけ穏やかに、敬意を込めて接する。
- ・S12 正しく裁く方に自分を委ねる。ほかの人から誤解されたり、ひどいことをされたりした時には、エホバが全てを分かってくれているということを思い出し、そのことを確信して全てをエホバにお任せする。
- ・S13 時には不当な扱いをされて、体も心も大きなダメージを受けることがあっても、エホバは全てのことを知っているということを忘れない。不当な扱いを受けて苦しんだイエスもあなたの気持ちをよく分かってくれている。

2. 「神の憤りに任せ」るとはどういうことですか。

- ・S14 問題を正すタイミングや方法はエホバの判断に任せ、エホバを待つこと。
- ・S15 自分の力で問題を解決しようとすると、多くの場合ストレスや挫折感を味わうことになるが、「私が報復する」というエホバの約束を信じているなら、エホバが一番良い方法で問題を扱ってくれるという確信を持ってエホバに任せることができる。必ず良い結果になる。

3. 不当な扱いを受けた時、祈りはどのように助けになりますか。

- ・S16-17 イエスが自分に対して酷い不当な扱いをしたローマの兵士たちに罰が与えられることを願うのではなく、エホバに彼らの罪を許していただけるよう祈ったように、私たちも、自分にひどいことをした人のために祈るなら、憤りや怒りの気持ちを静めることができます。相手に対する自分の見方も変えられるかもしれない。
- ・S19 この体制が続く限り、不当な経験をすることがあるが、でもどんなときも、祈ってエホバに頼ることをやめないようにする。

38 番の歌 神はあなたを強い人にしてくださる

△ 一部の名前は変えてあります。

△ 「ペテロの第一の手紙」の2章と3章で、ペテロは1世紀のクリスチヤンが経験していたことについて書いています。当時のクリスチヤンの中には、自分が奴隸として仕えていた主人や信者でない夫から、ひどい扱いを受けていた人たちがいました。 (ペテロ 2:18-20; 3:1-6, 8, 9)

△ jw.org の「愛があれば平和になる」という動画を参照。

△ (ロマ 12:21) 悪に征服されではありません。善によって悪を征服し続けましょう。

△ (ルカ 18:1-5) イエスは弟子たちに、常に祈り、諦めてはならないことについて、さらに例え話をした。 2 「ある町に、神への畏れも人への敬意もない裁判官がいました。 3 その町には1人のやもめもいて、何度も彼のもとに来ては、『訴訟の相手との間で公正な裁判がなされるようにしてください』と言いました。 4 裁判官はしばらくは気が進みませんでしたが、その後、心の中で言いました。『私は神を畏れたり人を敬ったりしないが、 5 このやもめがうるさく言ってくるから、公正な裁判がなされるようにしてやろう。そうすれば、訴え続けて私を困らせるこはないだろう』」。

△ (伝 5:8) もし、貧しい人が虐げられ、辺りで公正や正義が侵されているのを見ても、そのことで当惑してはならない。高官は、さらに位の高い者の監視下にあり、その位の高い者の上にはさらに位の高い者がいるからだ。

△ (詩 37:28) エホバは公正を愛する方。ご自分に尽くす*人を見捨てる事はない。その人々はいつも守られる。しかし、悪人の子孫は取り除かれる。

または、「を搖るぎなく支持する」、「から離れない」。